

Dr.ひろみの



ハッピー子育て

か る た

ひ ろ ば



みなさん、こんにちは！正月に認知症の義母がうちに遊びに来ました。私や孫の名前や顔を忘れても、一人息子のことは絶対に忘れない義母。その義母が真顔で「ゆきおは彼女ができたのかねえ」と私に聞いてくるのです！義母の中で息子は20代なんでしょう。「すっごくいい彼女ができてね、その人と結婚したらいいですよ」と言うと、「へえ～そうなの?!」と心底驚き、嬉しそうな顔をしていました。母はいつまでも息子を案じるものなんだなと微笑ましくなりました。



☆読み手☆
鈴木 裕美 (すずき ひろみ)
香川大学医学部 小児科専門医



今月のかるた解説



子どもが勉強でも部活でも頑張って結果を出すと、次はもっといい成績がとれるのではないかと親が期待して、おしりをたたくことがありますよね。それは「今回もできたんだから次はもっとできる」「今回はいまいちだったから、次はもっと頑張れ」という応援や激励なのかもしれませんが、それってキツいなあとと思いませんか。今、走り切ったばかりの子どもに、次のレースのことを期待するのは酷ではないでしょうか。まず、しっかりねぎらい、休ませる。ここができないと、エネルギーが貯められません。終わったとたんに、「次はどうする?」「次の目標は?」って聞くのはやめておきましょう。とにかく一つ終わった、とにかく頑張った。そのことを喜びましょう。

医学部に入学してきた学生で勉学に力が入らず、留年する子も少なくないです。頑張りすぎてガソリンタンクがゼロになったら、エネルギーを貯めるのに時間がかかります。そういう学生を責めたり、頑張れと叱咤激励しても何も変わりません。次の目標を決めて、進むのは本人だけです。私も学生には頑張ったことをねぎらい、ゆっくり休みなさいとしか言いません。エネルギーが貯まれば、足も前に出てきますから。